

第2学年 道徳学習指導案

2組 計27人 (男子16人,女子11人)

指導者 田平奈保美

1 主題名 **じぶんの力で** (1-(1) 節度・節制, 自立)
読み物資料「ねこの目」(学習研究社2年)

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【低学年1-(1)】 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。
【中学年1-(1)】 自分でできることは自分でやり、節度のある生活をする。
【高学年1-(1)】 生活を振り返り、節度を守り節制に心掛ける。

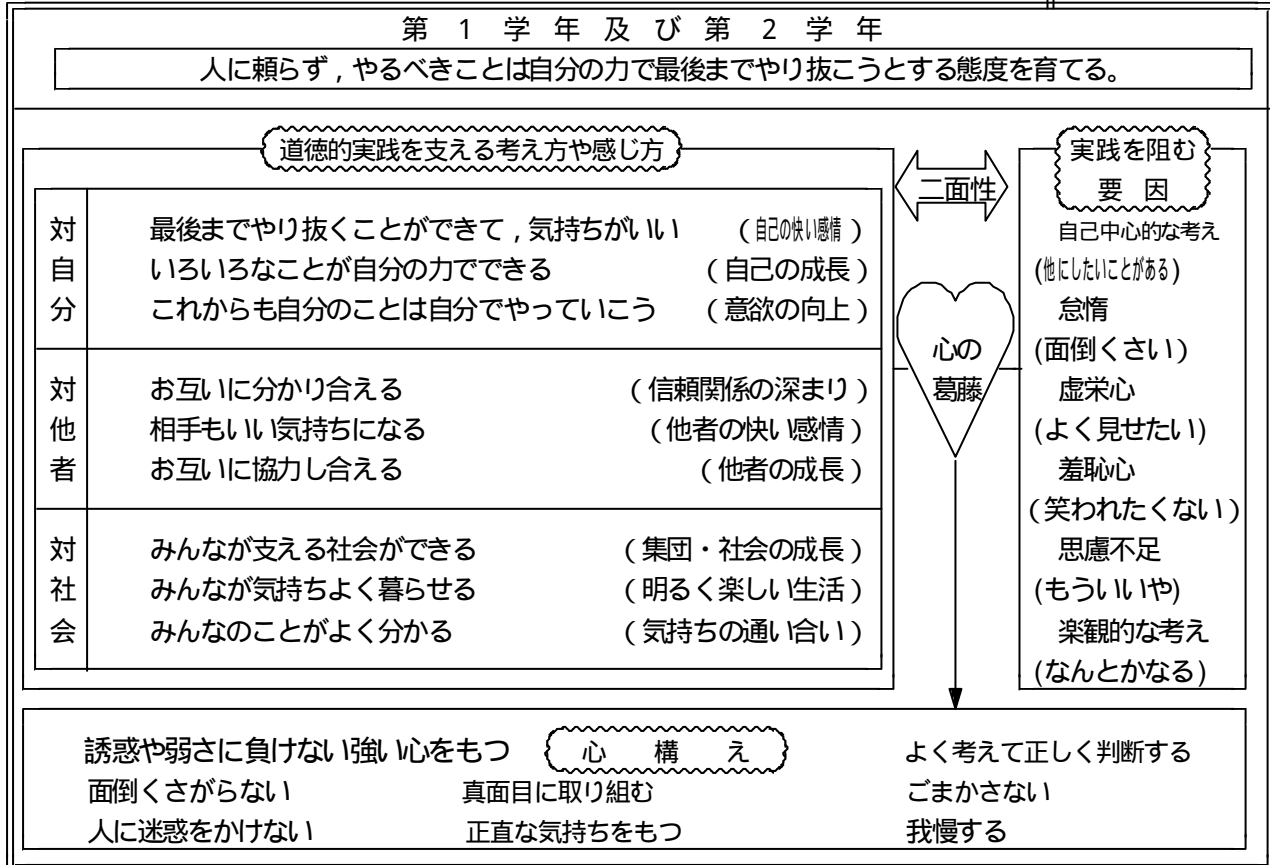
(2) 指導内容についての基本的な立場

「自立」とは、他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり、身を立てたりすることである。健康や安全に気を付けること、物や金銭を大切にすること、身の回りの整理整頓を心掛けることなどは、日常生活を送っていく上で重要なことであり、それらを自分から進んですることは、自身の生活をよりよくしていくことにつながる。

この期の子どもたちは、学校での集団生活にも慣れ、その中で自分がしなければならぬことが分かってくる。そして、うまくやりたい、褒められたいという気持ちから、自分から進んで取り組もうとする姿も見られるようになってくる。しかしながら、困難にぶつかると投げ出してしまったり、自己中心的な考えや面倒くささから、いい加減に済ませてしまったりすることも見られる。

そこで、本主題では、自分の力で最後までやり抜こうと思ってもうまくいかずに投げ出してしまったり、人に頼ってしまったりする心の弱さを誰もがもっており、それを乗り越えられないことが自分の気持ちを暗くしたり、自分のよさを失わせたりすることに気付くようにする。そして、うまくいなくても、自分の力で最後までやり抜くことのよさに触れ、そのときの喜びや心地よさを感じ取ることができるようにする。これらのことにより、自分から進んで規則正しい生活を心掛け、よりよい生き方をしていこうする態度を育てることをねらいとする。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造

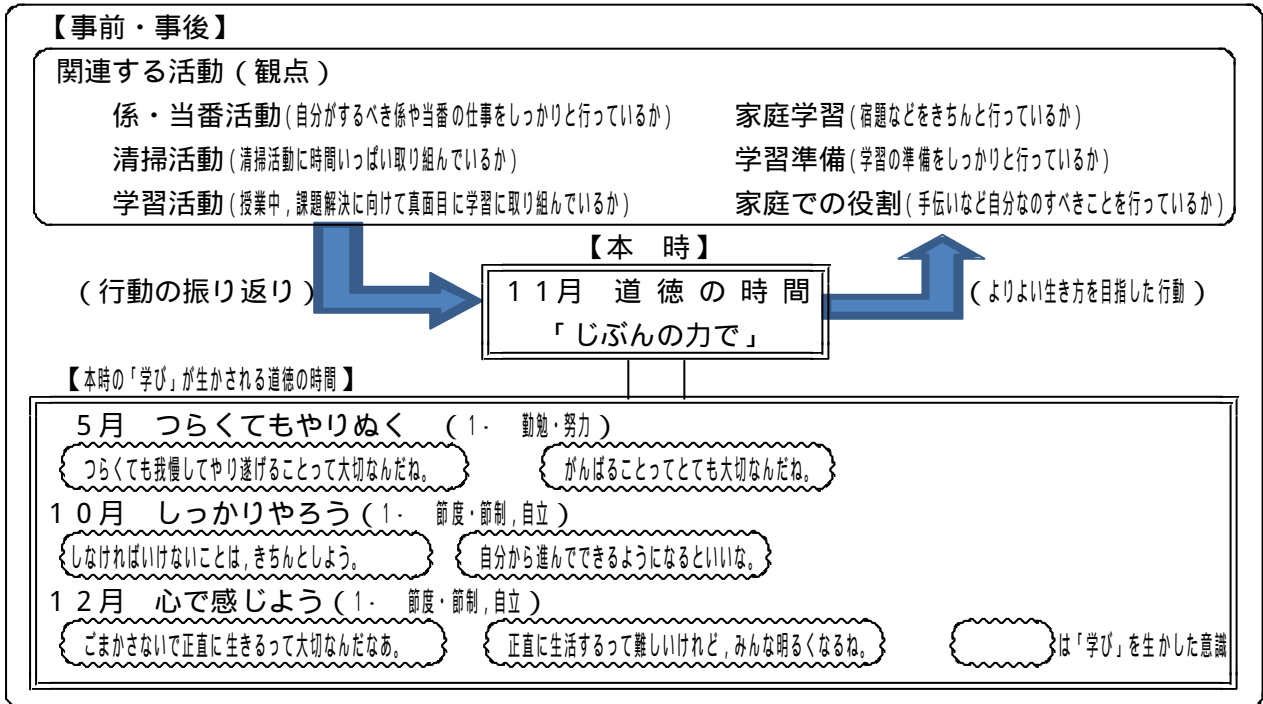


(は重点項目)

【節度・節制，自立に関する「学び」の系統】

自分でできることは自分でやり，節度のある生活をする事ができる子ども			
	道徳性に関する発達	心の弱さ	大切にしたい心構え
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 先を考えて行動することができるようになる(見通しをもった行動) 自己の欲求を抑えて行動できるようになる(忍耐力の成長) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の価値判断に基づき行動してしまう(価値観の画一化) 他のことに夢中になってしまう(責任感の欠如) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意志を強くもって行動する。 誘惑に負けないで，結果を考えて行動する。 責任感をもつ。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 相手や集団のことを考えて行動できるようになる(社会性の成長) 行為に対して，内省することができるようになる(反省能力の成長) 自分の成長のために自分でする(自律的な考えの成長) 	<ul style="list-style-type: none"> 他人の意見に流されてしまう(主体性の欠如) だれかがしてくれるだろうと頼ってしまう(主体性の欠如) やらなくても何とかなるだろうと考えてしまう(線形的な考え，思慮不足) 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもってよく考えて行動する。 誘惑に負けない強い意志をもつ。 あきらめずに努力する。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> よいことと悪いことの区別がつくようになる(善悪の判断) おこられるから自分でする(他律的な考え) 	<ul style="list-style-type: none"> 誘惑に負けてしまう(自己中心的な考え) 苦しさで直面すると，すぐにあきらめてしまう(労苦からの逃避) 	<ul style="list-style-type: none"> わがままな態度をとらないようにする。 善悪の判断を基によく考えて行動する。 最後まであきらめない。

【節度・節制，自立に関する「学び」の関連】



【資料について】

ねこのお面を作ってくる宿題を出された「わたし」。目の部分をくりぬくところがなかなかうまくいかずに困ってしまう。「はさみをかしてごらん。」というお姉ちゃん言葉に，手伝ってもらおうかな，とはさみをわたしかけるが，自分の力で最後まで仕上げる。

できたお面は上手とはいえない作品であったが，先生の「なかなかいいお面だね。」と褒めてもらったわたしは，心の中がふわっとしたあたたかい気持ちになった。

3 子どもの実態

(調査人数27人 重複あり H20.9.19)

(1) 本主題に関する経験場面

自分のことを自分でした経験	人数
・ 家の手伝い	11
・ 係活動	5
・ 水泳学習	4
・ 宿題	2
・ 身の回りの片付け	3
・ 作文	1
・ 無回答	1

(2) 本主題に関する経験の理由

自分のことを自分でできた理由	人数
・ 褒められたいから	10
・ お母さんに頼まれたから	6
・ 誰かが喜ぶから	4
・ しないと叱られるから	4
・ 嫌だったけど先に済ませたいから	2
・ すっきりしたいから	1

(3) 本主題に関する経験場面

自分のことを自分でできなかった経験	人数
・ 勉強や宿題	15
・ 係活動	5
・ つすまき運動	4
・ 家の手伝い	2
・ 身の回りの片付け	1

(4) 本主題に関する経験の理由

自分ことを自分でできなかった理由	人数
・ 途中でやりたいことがあったから	8
・ どうすればいいかわからなかったから	6
・ 嫌になったから	5
・ 面倒くさくなったから	4
・ つらくなったから	3
・ 無回答	1

(5) 道徳的価値の意義

自分のことを自分ですることがどうして大切か	人数
・ 自分でしないといけないから	14
・ 自分のためになるから	10
・ 自分が成長しないから	8
・ 自分の気持ちがすっきりするから	4
・ 大人になって何もできなくなるから	3

(6) 道徳的価値に対する心構え

自分のことを自分でするための心構え	人数
・ 自分の力で最後までがんばる気持ちをもつ	17
・ 楽しいこと(ゲーム・テレビ)をがまんする	3
・ 人に迷惑をかけないという気持ちをもつ	2
・ 弱い心に負けないようにする	2
・ 無回答	3

【考察】

学級のほとんどの子どもが、自分のことを人に頼らずに自分の力でできた経験をもっている。しかしながら、その理由として、自分のことを自分でできたときの心地よさを挙げている子どもは少なく「褒められたいから」、「叱られるのが嫌だから」といった他律的な理由が多くを占めていることが分かった。また、全員が、自分のことを自分ですることができなかった経験も持っている。特に、勉強や宿題を挙げた子どもは半数を占めている。また、その理由として、「途中でやりたいことがあったから」、「面倒くさかったから」といった自己中心的な考えや怠惰な感情が多くを占めた。しかしながら、本主題に関する道徳的価値の意義については、全員が自分なりの考えをもっている。このことから、子どもたちは、自分のことは自分ですることが自己の成長や快い感情につながるということが分かっているといえる。ただ、心構えについては、「がんばる気持ちをもてばできる」と安易に考えている子どもが半数以上を占めていることが分かった。

そこで、本時では、子どもたちにとって身近な宿題についての読み物資料を通して、主人公の心の葛藤を十分に考えることで、自分でしなければならないことを人に頼ってしまう主人公の心の弱さを共感できるようにする。そして、自分のことは自分ですることが、自己の成長や快い感情につながるだけでなく、相手との信頼関係も深まり、相手も快い感情をもつことができることに気付かせていく。さらに、「がんばる気持ちをもてばよい」という考えをもっている子どもたちについては、友達の経験と自分の経験とを照らし合わせて考えることで、自分がすることは自分の力でするには、様々な心構えがあるということ気付くようにする。

4 本時

(1) 目標

人に頼らず、やるべきことは自分の力で最後までやり抜こうとする態度を育てる。


(2) 指導に当たって(研究の視点との関連)

子どもの実態や主題のねらいを踏まえ、次のことに配慮して指導していく。

主人公だけでなく、周りの人の気持ちを考える活動を取り入れることで、道徳的価値の意義は自分だけでなく、他者にも広がっていくことを子どもたちが感じることができるようになる。

「深める」過程で、自らの体験を基に心の弱さを乗り越えたときの心地よさや大切にしたい心構えについて考え、「自分づくりカード」に書き込むことにより、本時の道徳的価値に関する考えの広がりや深まりを視覚的にとらえることができるようになる。

経験や心情、心地よさを、つなげたり広げたりしながら考えることができるように問いかけることで、子ども一人一人が、本時の道徳的価値にかかわる自分の見方・考え方・感じ方に広がりや深まりをもつことができるようになる。

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(分) 気 付 く (5)	<p>1 自分したことなのに、自分でできなかった経験について話し合う。</p> <p>自分のことを人に頼ったり、投げ出してしまったりして自分の力でできなかったことはないかな。</p> <p>家で宿題をしていて、途中で、見たいテレビ番組があったから、宿題するのをやめてしまったことがあるよ。</p>  <p>係活動の仕事で、面倒くさいし、誰かがしてくれるだろうと思って、しなかったことがある。</p> <p>自分のことを自分でできるようになるためには、どんな気持ちを大切にすればいいだろう。</p>	<p>教師の指導</p> <p>本主題についての課題意識をもたせるために、教師が自分の力でなかなかできない具体的場面の演技を行い、自分の力で最後までできなかった経験を話し合うことができるようにする。</p> <p>教師の範読を聞きながら、主人公の心の動きや行動が自分の経験や思いと重なる部分に線を引き、範読後にそれらを話し合うことで、場面の焦点化を図るようにする。</p>
見 つ め る	<p>2 資料「ねこの目」を読んで、主人公「わたし」の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) お姉ちゃんに「かしてごらん。」と言われたときの「わたし」の気持ちを考える。</p> <p>「かしてごらん。」と言われて、「わたし」はどんなことを考えたでしょうか。</p> <p>【手伝ってもらおう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手伝ってもらった方が、きれいに仕上がるからうれしいな。 ・ 面倒くさいからお願しようかな。 ・ 友達や先生がほめてくれるかな。 <p>【自分の力でやろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題なんだから、少くらい自分の力でやらないといけないな。 ・ お姉ちゃんにしてもらおうとなんかすっきりしないなあ。 	<p>経験を問う発問を基に考えることで、自分の経験と主人公の行動を照らし合わせながら考えたり、主人公の心情に深く共感することができるようにする。</p> <p>「心のつなひき」を活用し、主人公の気持ちを視覚的に表すことで、子ども一人一人が自分の気持ちに根拠をもちながら、相手に伝えることができるようにする。</p>
(30)	<p>(2) 先生にほめられたときの私の気持ちを考える。</p> <p>先生にほめられて、「わたし」はどんな気持ちになったでしょうか。</p> <p>お面は上手にできなかったけど、自分の力で最後まで頑張れてすっきりしたなあ。</p> <p>(3) どんな気持ちを大切にしたら自分の力でお面を仕上げることができたのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絶対に最後まで自分の力でやるんだという強い気持ちを大切にしたらできたと思うよ。 ・ ごまかさない気持ちも大切なんじゃないかなあ。 ・ 自分のことは自分ですという真面目な気持ちも大事だよ。 	<p>「心のつなひき」を用いることで、二つの行為の間で迷っている主人公の心情を、自分の経験や思いと照らし合わせながら考えることができるようにする。</p> <p>やるべきことは、自分の力で最後までやる抜こうとする実践意欲を高めることができたか。</p> <p>【発言、ワークシート、自分づくりカード】</p>
深 め る (7)	<p>3 これまでの自分を振り返り、自分のことを自分でできるようになることの大切さについて話し合う。</p> <p>これまでを振り返って、自分のことを自分でできるようになったことを考えてみよう。またそのときの気持ちや大切にしたい気持ちも考えてみよう。</p> <p>係活動で、自分の仕事を投げ出さずに最後までがんばることができました。友や先生が喜んでくれたので、とてもうれしかったなあ。面倒くさがらないことって大切なんだなあと思ったよ。</p>	<p>「自分づくりカード」を用いて、自分のことを自分でできた経験を振り返ることで、本主題に関わる道徳的価値についての見方・考え方・感じ方を広げることができるようにする。</p>
高 め る (3)	<p>4 教師の説話を聞いて、本主題の道徳的実践意欲を高める。</p> <p>先生も子どものころ、そんなことがあったんだ。</p> <p>面倒くさがらずによく考えることって大切なんだね。</p>	<p>教師の説話を聞くことで、自分のことを自分の力でやることのよさを感じ、本時の学習で学んだことの実践意欲を高めることができるようにする。</p>